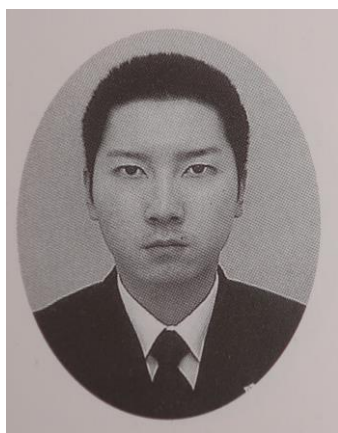


『伝統の継承』 ～ 応援団の団長を経験して ～ ^(※1)高普第 56 回卒 大久保 貴 司 ^(※2)

期待と不安で胸いっぱいの中、相馬高校に入学したのが今から7年前の平成13年の4月。まず洗礼を受けたのが伝統の校歌・応援歌練習でした。お昼休み、放課後と声が出なくなるまで歌わされ、それでも声を出せと言われ、まだあどけなさ残る私達1年生には先輩方の怒号が飛び交う中での練習は精神的に堪えるものがありました。その中でも、指導をする先輩方のリーダー、応援団長はそれまで出会ったことのないような人でした。短ランにボンタン姿で教室に入ってきて、他の先輩方よりはるかに、威圧感と迫力があり、とても怖い存在でした。団長が自分たちのクラスに来ると、より一層、緊張感が増し、音程など気にせず、大声を出しました。それほど、団長の存在は強烈でした。

しかし、過酷な1週間の練習が終わると、みんな『団長ってかっこいいよな』と憧れを持つようになっていました。そして、2年後、そんな団長に私はなってしまうのでした。きっかけは、1年の時の練習が終わった時、私が団長のものまねをしていたからでした。団長が私たちの声が小さい時に言っていた、『ちんちえ!』というのを真似してみたら意外に似ており、友人たちから『団長』というあだ名を付けられ、「3年生になったら団長やれよ」と……。その場の乗りで、「やるよ」と言っていたのですが、そもそも、そんなタイプではないため、もちろんその時は団長をやるつもりは全くありませんでした。

しかし、2年生の3月に春高バレーの応援に行った帰りのバスの中で、突然、当時生徒会長だった加藤優花 ^(※3) さんから、『校歌・応援歌練習の時、団長やってくれるんだよね?』と言われました。1年生の時からその時まで全くそんな話をしていなかったもので、かなりびっくりしました。あまりに急なことだったので、返答に困った挙げ句、『他にやる人がいなかったらやってもいいよ』と答え、とりあえずその場をしのぎました。

3年生になり、4月に新入生が入学してきました。この年は相高生にとって、新たな歴史の1ページを刻む年でした。それまで、理数科以外は男ばかりだったのが、男女共学 ^(※4) となり、女子生徒が入学してきたのです。今まで、男臭い学校だったのに女子が入ってきたことで、今までとは雰囲気が変わりました。そんな中、いよいよ校歌・応援歌練習が始まるまで1週間を切ったある日、加藤優花生徒会長から、突然、『団長よろしくね☆』と言われました。あの春高の時以来、話がなかったのに他に団長が決まっていると思って安心していました。まして、入学式前には決まっているものだと思っていたので、この時期にこんな話が来るとは予想もしてませんでしたので、びっくりしましたが、3月に自分で言ったことと、周りからの後押しがあったため、引き受けることにしました。

新たに入学してきた女子を目の前にして、どうゆう風に指導したらいいのか分からない不安と、嫌われ役になりたくないという気持ちがあったので内心は相当嫌でしたが、引き受けたからにはこの伝統ある校歌・応援歌練習を失敗させてはいけない、しっかりやろうと思ったので、気合いを入れるため丸刈り（坊主）にし、生徒会にあった長ランとボンタンを着て指導に臨みました。

いざ、指導が始まると女子にも男子にも泣かれ、複雑な心境でした。しかし、自分達も経験してきた訳だし、ここで甘くしたら、伝統を継承出来なくなってしまうという想いだけで、心を鬼にして指導しました。ただ、「女子にも頭出しをさせてもいい」と先生に言われたので、やらせたところ、次の日になり先生から、「女子にはやっぱりやらせないように」と言われ、正直、『何なんだよ～（泣）』とこちらが泣きたくなる場面もありました。

このような感じで試行錯誤の末、1週間、必死に応援歌指導に取り組み、なんとか野球部の定期戦を迎えました。私は担任の大須賀心綾^(※5)先生から、応援の時の演舞を教わり、本番当日にやりました。私が演舞を間違えたりと、ちょっとしたハプニングはあったものの、無事に終えることができました。そして、私にとっても1年生にとっても地獄のような日々が終わりました。

1年生は誰でもあの校歌・応援歌練習は嫌であると思います。しかし、私は団長を経験しこの校歌・応援歌練習はとても重要な意味を持つと実感しました。まず、中学校を卒業したばかりのまだ子供気分抜けない気持ちからの脱却。そして、学校のシンボルでもある校歌・応援歌を覚えることによって、相高生であるという自覚と愛校心が芽生える。そして、何より、辛い練習に耐えた友達との仲間意識や上級生との信頼関係や連帯感が生まれてくる。この他にも人それぞれ思うものはあると思いますが、校歌・応援歌練習は相高生として、また一人の人間の経験として重要だと思います。時代の流れとともに男女共学となり、校風は変わってしまいましたが、長く引き継いできた伝統だけは、変えずに継承して欲しいです。

最後に、在校生・卒業生ともに相馬高校生という誇りをもって生活して欲しいです。

(※1) 創立110周年記念誌『紅の旗』(2009(平成21)年1月発行)「思い出の記」(ああ、我らが青春の日々よ)より

(※2) 平成16(2004)年卒。

(※3) 馬城かわら版 第195号に記載。

(※4) 福島県立高校普通科の男女共学実施で、最後の高校が、相馬高校と相馬女子高校。

平成15(2003)年4月～。名称は、相馬高校と相馬東高校(現 相馬総合高校)となった。

(※5) 原町高校出身、平成5(1992)年卒業。